

農業振興計画 パブリックコメント意見

年齢/人	構成比
20代	2
30代	10
40代	5
50代	2
60代	1
70代	0
合計	20

あなたは低農薬や低化学肥料等、環境に配慮して栽培された農産物を意識して購入していますか。	
意識して購入している	意識しては購入していない
4人 (20%)	16人 (80%)

どのような条件が整えば農業が始めやすくなると思いますか。(複数回答)	回答数	回答率
所得の安定	15人	75%
初期投資への補助が充実している	7人	35%
農地が借りやすい	7人	35%
副業的に農業ができる環境が整っている	7人	35%
研修制度の充実	5人	25%
更衣室やトイレが整備されている	2人	10%

JＡ等が経営するファーマーズマーケットなど、地場産品を取り扱う店舗を今後利用する場合、どのようなところに魅力を感じますか。(複数回答)	回答数	回答率
価格	15人	75%
鮮度	9人	45%
味	8人	40%
産地	3人	15%
農産物の生育の過程・安全性	2人	10%
生産者	1人	5%

NO.	質問	意見	市の考え方 (47)						
			回答	盛り込み済み(10)	反映(19)	反映しない	参考(18)	その他	
1	Q1. 第2次静岡市農業振興計画では「環境負荷低減への取組」と「多様な担い手の確保」「地産地消の推進」を強化すべき方向性と考えています。概要をご覧になり、ご意見がありましたら記載してください。	農業も静岡市の産業を担う一つの分野として脱炭素をはじめとした環境負荷低減に取り組むことは、持続可能な産業としていくうえでとても大事なことだと思います。一方で、概要資料では静岡市におけるこの分野における現在の取り組み状況が見えにくいので、農業者や消費者の共感してもらえるよう、現状や将来像などがわかるとよいかと思います。	環境負荷低減に関する国の動向、市の将来像を記載しました。環境負荷低減農業に係る生産者と消費者の意識の醸成を図ります。 P22-23		●				
2		消費者目線だけでなく生産者側の意見も聞いて欲しい。	農業者の目線にたった計画となるよう意見等を伺いながら事業策定を実施します。 P16-17	●					
3		化学肥料のコストも上がっていると思うため、持続可能な農業のためにも推進していただきたい。	国の方針に基づき、2040年を見据えて「静岡市グリーン農業」を推進してまいります。 P22-23		●				
4		賛成。概要版(見直し(案改定))を拝見しても、目標達成に向けた具体的手段が見えないため、これ以上意見はない。	本編作成時に目標達成に向けた計画の基本方針を示します。 P27					●	
5		必要なことだと思うがメリットが薄いため、農家は取り組みづらいと思う。	環境負荷低減について、農業者だけでなく消費者への理解を醸成することで付加価値となり、農業所得の向上につなげてまいります。					●	
6		農業を減らすことで野菜に虫がついていたら、虫が苦手なので購入をためらってしまう。慣行栽培も引き続き行い、生産者だけでなく消費者の理解醸成を図りながら環境負荷低減農業を推進してまいります。	多くの農業者が支援や補助を活用できるよう周知してまいります。また、活用できる条件を設けるなど、支援の内容や方法を検討してまいります。					●	
7		取組むと補助金がでるだけやらないと思う。「取組まないとあらゆる補助金が受けられない」などやらざるを得ない状況でなければやらない。	第2次静岡市農業振興計画では環境負荷低減農業で得られる効果を農業者だけでなく消費者にも広く周知することで意識の醸成を図ります。 P22-23	●					
8		環境負荷低減への取組で得られる効果を明確化して農業者だけでなく消費者にも伝えてほしい。	静岡市グリーン農業を推進してまいります。 P22-23		●				
9		時代の流れ的に環境に配慮した農業は必要だと思う。	今後の施策の参考とさせていただきます。					●	
10		全産業で取り組んでいくことが大切だと思います。						●	

1	Q1. 第2次静岡市農業振興計画では「環境負荷低減への取組」と「多様な担い手の確保」「地産地消の推進」を強化すべき方向性と考えています。概要をご覧になり、ご意見がありましたら記載してください。	○多様な担い手の確保	静岡市の農業の現状を見ると、農業や農地を支える担い手の確保は急務と思います。資料を見ると、「多様な担い手」とは「中間層」であったり「農業に興味がある人材」のことを指しているかと思います。この確保が、継続的な課題である「担い手の確保」とどう違うのか、また、どう農業振興に寄与していくのかなどをわかりやすくしていただければと思います。	「担い手」と「多様な担い手」の違いについて記載しました。	P37	●					
2			自然を相手にする農業は安定した収入は見込めず、資材や各種税金がかかりすぎる為に誰もやりたがらない。利益がほとんど無いに固定資産税ばかり取られる。	第2次静岡市農業振興計画では引き続き、農業所得の向上につながる事業に進め、魅力ある産業となるよう努めます。					●		
3			農業についてポジティブなイメージが日本にはない。インセンティブ設計とイメージ戦略を組み合わせるべきかと思います。	農業のイメージ戦略については、農業所得の向上を進めることで魅力ある産業となるよう努めます。						●	
4			担い手確保のためには、農地の生産性を高め所得の面で魅力ある産業となるような支援が必要です。気候変動等への対応等課題が多いと思いますが市の基幹産業となるべく記載のような攻める施策を進めていただきたいです。	第2次静岡市農業振興計画では引き続き、農業所得の向上につながる事業に進め、魅力ある産業となるよう努めます。 また、多くの人材が農業に参入できるよう「多様な担い手」に関する事業を進めます。	P22-23	●					
5			新規就農希望者が他地域と静岡市を比較した際に、静岡市で農業を行い生計を立てるビジョンがより見やすいよう体系立てて事業を展開していく必要がある。 後期実施計画に記載されている事業はいずれもビジョンが立った後の実行に対する支援であり、ビジョンを立てるまでの支援が農協等にあるとしても、行政の計画として見えない形では片手落ちに感じる。 特定農産物の生産地（例えば、北海道平取町のトマト生産）のように、新規就農者に生産スケジュール・圃場・収益モデル・支援までがパッケージ化されて示せるようなものが欲しいと感じる。	多くの方が支援を活用できるよう周知していくとともに、県、市、農協が一体となってサポートする体制において、引き続き、新規就農者等をサポートしてまいります。	P37	●					
6			建設業や土木業者が農地を所有できるようになれば、閑散期に副業的に農業に参入できる。	一定の条件を満たせば現在も所有することは可能ですが、農地法の規制について、関係課と協議してまいります。						●	
7			中途半端な人間の参入は市場価値を下げる可能性があるのでは窓口を広げるにも制限が必要	就農に際し、就業計画等を立てるなど、担い手が自立できるよう支援してまいります。	P37					●	
8			荒廃農地を貸出農地と整備して市民が手軽に農業に触れられる施設があればよいと思う。	隣地農家への集約や新規就農者への貸し出しなどにより荒廃農地の活用に努めます。						●	
9			自家消費から販売意欲につながるための事業が必要ではないか。	農業所得の向上につながる事業を進めてまいります。	P27	●					
10			これをきっかけに使われていない農地が再生されるのは良いことだと思う。	隣地農家への集約や新規就農者への貸し出しなどにより、再生されるよう努めます。	P38	●					
11			市内の学校に農園を整備してはどうか。農業に触れる機会が圧倒的に少ない。	関係機関と協議してまいります。						●	
12			農業に接する機会がないため、ハードルが高い気がします。農業を気軽に始められる仕組みなどがもっと普及すれば、担い手となる人も増える気がします。	担い手の確保については、引き続き事業を進めるとともに、多様な担い手の確保を進めてまいります。	P37	●					
13			多くの方が農業に興味を持ち、関心が高まることが大切だと思います。	第2次静岡市農業振興計画では引き続き、農業所得の向上につながる事業を進め、魅力ある産業となるよう努めます。 また、多くの人材が農業に参入できるよう「多様な担い手」に関する事業を進めます。	P37	●					

1	Q1. 第2次静岡市農業振興計画では「環境負荷低減への取組」と「多様な担い手の確保」「地産地消の推進」を強化すべき方向性と考えています。概要をご覧ください、ご意見がありましたら記載してください。	○地産地消の推進	地産地消の推進は、静岡市の多彩な作物を育てる環境を活せるということで良い取り組みだと思います。これを支援していく上で、静岡市産だということを消費者にとって分かりやすくすることや、市内での販路や販売場所を確保するなどの支援があるとよいと思います。	今後、施策の参考とさせていただきます。 P23.35	●					
2			地元だからその味と鮮度を維持しないと意味がない。	地産地消の推進にあたり、関係団体と連携して地産地消が持つ優位性を周知してまいります。 P23.35	●					
3			安定的な仕入れ先・販売先の確保という観点や、食料自給力の向上といった安全保障の観点からも推進していただきたい。	関係機関と連携して地産地消を推進してまいります。 P23.35	●					
4			需要が見込める範囲内で生産すればよろしい。	多くの消費者が生産者に求め、それに応える双方が必要だと感じることができるよう事業を検証してまいります。 P23.35				●		
5			市内産の野菜を購入したいがどこに売っているかわからない。JA直営ではなく市内のスーパーに充実させることはできないか。	関係機関と連携して市内産農産の取り扱いについて協議してまいります。 P23.P35	●					
6			まずは学校給食からはじめるのはどうか。量の確保が難しいのであれば、特定のことも園で実験的にやるのはどうか。	学校給食に係る地産地消について、関係課と協議してまいります。 P23.P35	●					
7			市内産に拘らず近隣都道府県の特産品と組み合わせる観光要素を含めながら事業展開してはどうか。（長野県産そば+静岡市産わさびなど）	ガストロノミーリズムとの組み合わせについては、関係各所と協議してまいります。 P23.P35	●					
8			国産か外国産は気にするが市内かどうかはあまり気にしない。	販売先の周知や広報活動を行い、地産地消を推進してまいります。					●	
9			市民向けに地産地消を広げるよりも外向きに静岡市の農産物をPRしたほうが良いのではないかな。	地産地消を推進するとともに、農業所得の向上につながる事業としてブランド化にも注力してまいります。 P23.P33	●					
10			環境負荷低減と合わせて「環境に配慮している市内産農産物」であることがわかるマークや行政のお墨付きがあれば消費者にPRできると思う。	環境に拜領した農産物の普及に努めてまいります。 P23.P41	●					
11			近所のマックスバリュにも、採れたての野菜が並ぶことが増えています。ただし、質と金額の関係で売り切れとなってしまうものもあれば、売れ残ってしまう野菜もあつたりします。なので、売り方にも工夫が必要ではないかと思いました。	関係機関と協議をして地産地消の推進について検討してまいります。					●	
12			地元の野菜が届く定期便（サブスク）があれば利用してみたいと思う	今後の施策の参考とさせていただきます。					●	
13			市民にどこに行けば買えるかを伝えていくことが必要だと思います。	関係機関と協議をして地産地消の推進について検討してまいります。 P23.P35	●					
1	Q3. どのような条件が整えば農業が始めやすくなると思いますか。		農業については儲けられない、辛い、汚いなどのイメージが先行する印象です。個人事業主を創出するより、農業会社を設立するなどした方が良いように思います。 P37	●						

